※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０４

令和８年度　学アート科

教科	学アート	科目	(学)音楽研究	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

各時代の音楽の中から、TV や映画などで使われている親しみやすい楽曲を取り上げ、時代背景やエピソードなどを学習しながら鑑賞する。

2　学習の到達目標

・原始から現代にいたる各時代の音楽について、歴史等を学びながら鑑賞する力を身につける。
・音楽のよさや美しさを創造的に味わい、音楽への批評とそれを他者へ伝える力を養う。
・多様な音楽について主体的に学習し、積極的に自身の感性を磨く態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識　※技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	西洋音楽史・日本音楽史に関する基礎的な知識について理解している。（知識） ※鑑賞中心の授業である為、技能については設定しない。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わって表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを主体的に知覚し各課題に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
半期	西洋音楽史の概要・日本音楽史の概要・各時代の作曲家や楽曲・世界の民族音楽	プリント教材と視聴覚教材を活用し、音楽史の大きな流れを理解する。 特に知っておきたい作曲家、楽曲、民族音楽について理解を深める。	a:西洋音楽史・日本音楽史・作曲家やその楽曲・民族音楽について理解している。 b: 西洋音楽史・日本音楽史・作曲家やその楽曲・民族音楽について、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わって思考や表現をしている。 c: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを主体的に知覚し各課題に取り組もうとしている。	【知】学習内容を理解している(提出物)	【思】良さや美しさを創造的に味わって思考や表現をしている(提出物)	【態】音楽を形づくっている要素を知覚し、主体的に鑑賞課題に取り組むことができる。 (観察) (提出物)

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度